

食の安全と購買行動に関する分析

黒谷万美子

An Analysis of Consciousness of Food Safety and Buying

Mamiko Kurotani

キーワード：食品表示 food label, 食の安全 food safety, 購買行動 buying behavior, 健康行動 health behavior, 健康支援 health support

I. 問題及び目的

近年、食品偽装や食品への異物混入などの報道に加え、数多くの社会的要因が消費者の不安を大きく増幅させているものと考えられる。しかし、この背景の1つとして外食や中食、加工食品に頼らざるを得ない消費者の心理、社会的状況があるものと考えられている(橋本, 2007)¹⁾。食の安全性に関しては、あらゆる方面から研究が行なわれているが、吉川は食の安全を3つの要素Food Security、Food Safety、Food Defenseに分けてレベルの違いを述べている²⁾。具体的な研究として残留農薬と食の安全性について(上路, 2003)³⁾や安全性に配慮した栽培方法(佐藤ら, 2001)⁴⁾、若い世代の購買行動(上岡, 2002)⁵⁾など⁶⁾⁷⁾⁸⁾の研究があげられる。

そこで本研究は、家庭を築き次の世代を担う者として、大学生を対象とし、健康行動、食に関する知識や購買行動、安全に対する意識を明らかにし、健康支援のための基礎資料を得ることを目的とする。

II. 方法

1. 調査対象

A大学学生340名を対象に質問票による自記式アンケートを実施(回収率98.0%)し、そのうちほとんど記入されていないものを除く有効回答311名(有効回答率93.4%)について分析した。

2. 調査方法

質問票による自記式アンケートを実施し、回

収した。倫理的配慮として、調査の目的、データの管理、プライバシーの保護(結果は統計的に処理され個人名が特定できないこと)などを口頭及び書面で説明した。

3. 調査期間

2008年7月に実施した。

4. 調査内容

調査項目は主として次の項目からなっている。

- ①対象者の属性に関する項目(身長、体重、年齢、居住状況など)
- ②食生活に関する項目(料理に対する関心、食の知識など)
- ③健康行動に関する項目(健康習慣など)
- ④食品の品質表示に対する購買行動に関する項目(外見重視、品質重視、利便性重視、ブランド重視)
- ⑤食の不安に関する項目(食品への不安行動、農薬不安など)

健康習慣についてはプレスローの7つの健康習慣尺度(Belloc N.B.and Breslow J., 1972)⁹⁾を参考に5点法にて、食の不安に関する項目は食品への不安・安心感情(大庭ら, 2005)¹⁰⁾の13項目5点法にて、購買行動については食品の品質表示に対する購買行動(上岡, 2002)¹¹⁾の15項目5点法をそれぞれ使用し回答を求めた。食品購買時重視項目15項目は、「包装デザイン」「見た目」「ネーミング」「広告・宣伝」の外見重視と「新鮮さ」「品質」「安全性」「栄養面」の品質重視、「おいしさ」「食べやすさ」「簡便性・利便性」「価格の安さ」4項目の利便性重視、

「商品の高級感」「ブランド」「伝統性」3項目のブランド重視に分けられる。

5. データ集計

食の不安13項目について主因子法による因子分解を行った結果3因子が抽出された。第Ⅰ因子に高い因子負荷量を示したものは、「添加物の入ったものは食べるのが心配」「農薬を使った野菜を食べるのは不安」「抗生物質入りのエサで育った家畜の肉を食べるのは不安」「輸入されている食品には安心できないものがある」「遺伝子組み換え食品は不安」の5因子であり「科学技術食品不安」と名付けられた。第Ⅱ因子に高い因子負荷量を示したものは「自然食品店で売っている食品は安心」「有機野菜は安心」「水道水よりミネラルウォーターの方が安心」「自然と名が付く食品なら安心」の4因子が抽出され、自然食品安心と名付けられた。第Ⅲ因子に高い因子負荷量を示したものは「化学肥料・農薬を使用した野菜果物は買いたくない」「野菜をしっかりと水洗いする」「野菜果物は産地を選んで買う」「有機JASマークのある野菜を買う」の4因子であり、農薬不安と名付けられた。それぞれ5件法で回答を求め1点から5点を配し平均値を算出した結果Cronbachの α 係数は、科学技術不安($\alpha = 0.83$)、自然食品安心($\alpha = 0.71$)、農薬不安($\alpha = 0.74$)であった。

食品購買時重視項目も同様に5件法で回答を求め1点から5点を配し平均値を算出した結果Cronbachの α 係数は、外見重視($\alpha = 0.66$)、品質重視($\alpha = 0.85$)、利便性重視($\alpha = 0.63$)、ブランド重視($\alpha = 0.80$)であった。

料理の関心、食の知識、健康行動、食品表示注意も同様に5件法で回答を求め1点から5点を配し平均値を算出した結果Cronbachの α 係数は、料理の関心($\alpha = 0.76$)、食の知識($\alpha = 0.79$)、健康行動($\alpha = 0.60$)、食品表示注意($\alpha = 0.77$)であった。

統計解析には、SPSS13.0 for Windowsを用い、検定は χ^2 検定、信頼性分析をし、信頼性の認められた尺度は尺度ごとに平均値と標準偏差を求め、t検定、一元配置分散分析により比較検討した。有意水準は5% (両側検定) とした。

Ⅲ. 結果

1. 対象者の属性

年齢：18歳44名 (14.1%)、19歳78名 (25.1%)、20歳91名 (29.3%)、21歳以上98名 (31.4%)

居住状況：自宅195名 (63.1%)、寮・合宿所11名 (3.6%)、アパート71名 (23.0%)、下宿32名 (10.4%)

2. 食生活

(1) 料理の関心

料理の関心についてみた結果、図1の通り最も多かった項目は「料理は手作りを好む」が70.1% (「非常に当てはまる」が31.8%、「まあまあ」が38.3%)、次に「料理の後片付けが面倒」が58.9% (「非常に当てはまる」が22.2%、「まあまあ」が36.7%)、「料理を作ってもらおう」が48.9% (「非常に当てはまる」が26.7%、「まあまあ」が22.2%)であった。逆に少なかった項目は「料理に関心がない」が7.7% (「非常に当てはまる」が2.6%、「まあまあ」が5.1%)、「加工食品を利用しない」が16.8% (「非常に当てはまる」が3.9%、「まあまあ」が12.9%)であった。

(2) 食の知識

食の知識についてみた結果、最も多かった項目は「賞味期限の意味を知っている」が92.3% (「非常に当てはまる」が48.9%、「まあまあ」が43.4%)、次に「消費期限の意味を知っている」が90.7% (「非常に当てはまる」が47.6%、「まあまあ」が43.1%)であり、逆に少なかった項目は「トレーサビリティを知っている」が24.7% (「非常に当てはまる」が10.9%、「まあまあ」が13.8%)であった。

食の安全と購買行動に関する分析

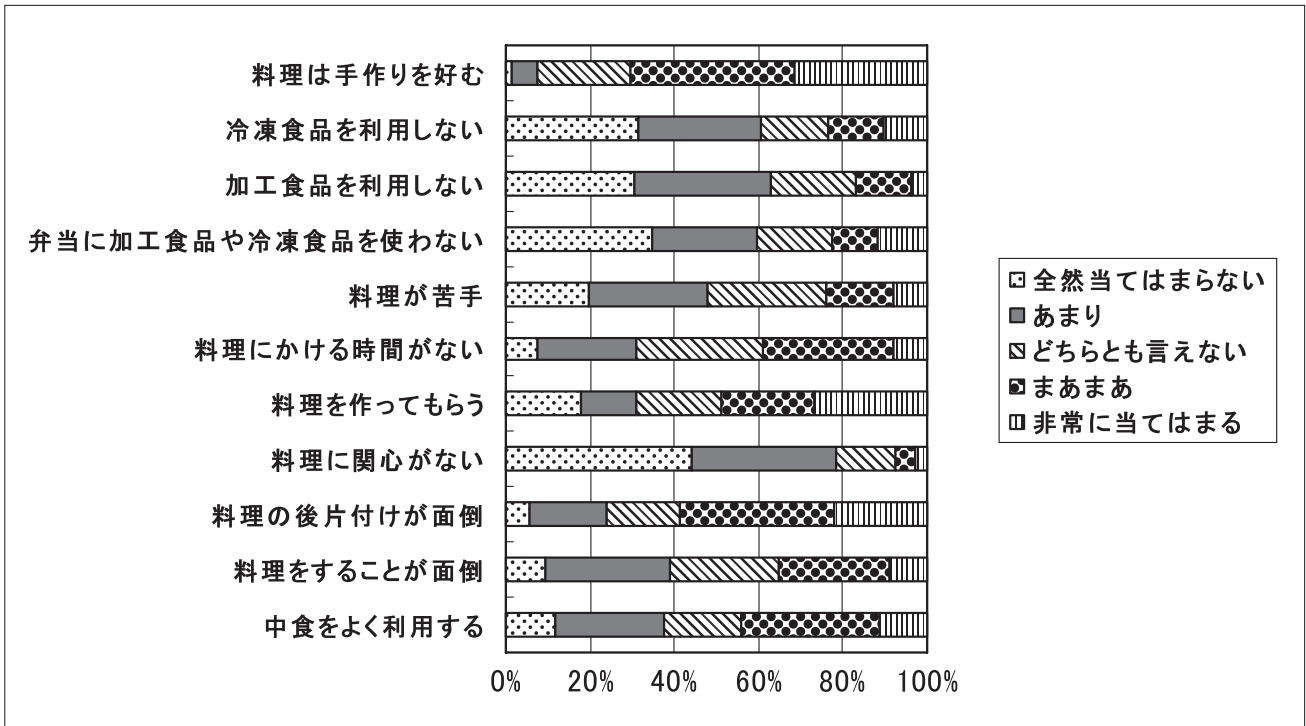


図1. 料理の関心

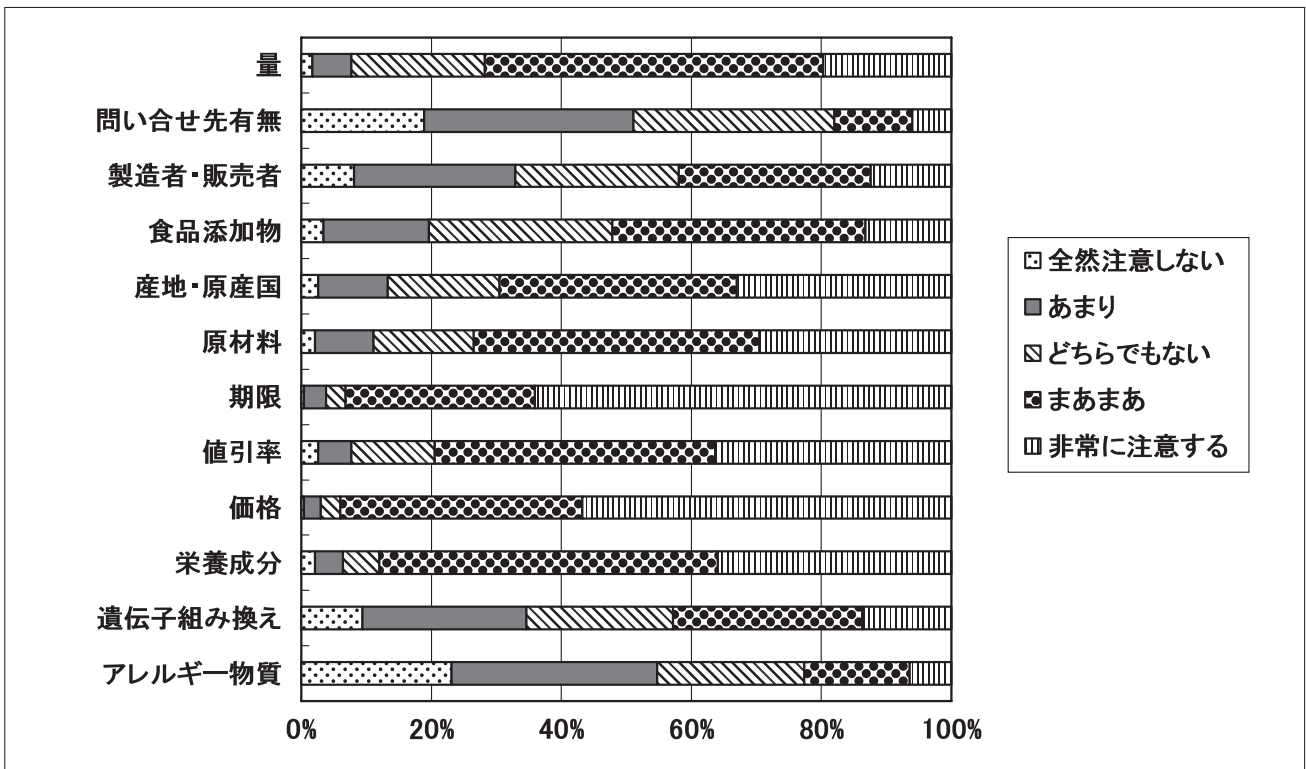


図2. 食品表示注意項目

3. 健康行動

健康行動についてみた結果、最も多かった項目は「喫煙習慣がない」が82.3%（「非常に当てはまる」が78.1%、「まあまあ」が4.2%）、次に「過度の飲酒をしない」が77.1%（「非常に当てはまる」が57.1%、「まあまあ」が20.0%）、朝食を毎日摂るが65.8%（「非常に当てはまる」が50.0%、「まあまあ」が15.8%）であった。逆に少なかった項目は「特定保健用食品を意識的に摂る」が12.2%（「非常に当てはまる」が3.2%、「まあまあ」が9.0%）、「間食をしない」が14.6%（「非常に当てはまる」が5.2%、「まあまあ」が9.4%）であった。

4. 食品表示

(1) 食品表示注意項目

食品表示を見るか否かについては、見る者が74.7%であり、どの項目について見るかでは図2の通り最も多かった項目は「価格」が94.0%（「非常に当てはまる」が56.8%、「まあまあ」が37.2%）、次に「期限」が93.2%（「非常に当てはまる」が64.1%、「まあまあ」が29.1%）、「栄養成分」が88.0%（「非常に当てはまる」が35.9%、「まあまあ」が52.1%）であった。逆に少なかった項目は「問合せ先の有無」が18.0%（「非常に当てはまる」が6.0%、「まあまあ」が12.0%）、次に「アレルギー物質」が23.6%（「非常に当てはまる」が6.4%、「まあまあ」が16.2%）であった。

(2) 食品購買時重視項目

食品を買う際に重視する項目について見た結果、図3の通り最も多かった項目は「おいしさ」が95.8%（「非常に当てはまる」が63.8%、「まあまあ」が32.0%）、次に「新鮮さ」が93.1%（「非常に当てはまる」が55.3%、「まあまあ」が37.9%）、「品質」が92.3%（「非常に当てはまる」が54.4%、「まあまあ」が37.9%）であった。逆に少なかった項目は「ネーミング」が22.9%（「非常に当てはまる」が3.2%、「まあまあ」が19.7%）、「ブランド」が24.0%（「非常に当てはまる」が6.8%、「まあまあ」が17.2%）であった。

5. 食の不安

食品の安全性について関心が高いと思う者は160名（51.6%）であり、ここ1年間で関心が高くなった者が53.2%と半数以上を占めた。食品に対して不安を感じる者が57.0%であり、図4に示した通り最も多かった項目は「野菜をしっかりと水洗いする」が75.8%（「非常に当てはまる」が27.4%、「まあまあ」が48.4%）、次に「輸入品は安心できない」が71.0%（「非常に当てはまる」が22.6%、「まあまあ」が48.4%）、「水道水よりミネラルウォーターの方が安心」が60.6%（「非常に当てはまる」が27.4%、「まあまあ」が33.2%）であった。逆に少なかった項目は「自然と名が付く食品は安心」が23.9%（「非常に当てはまる」が4.5%、「まあまあ」が19.4%）、「添加物の入った食品は心配」が30.1%（「非常に当てはまる」が6.8%、「まあまあ」が23.3%）であった。

6. 健康行動との関連性

(1) 食品購買時重視項目と健康行動

食品購買時重視項目の外見重視・品質重視・利便性重視・ブランド重視と健康行動についてみた結果、表1に示した通り健康行動高群が高値であったのは品質重視（ $P<.001$ ）とブランド重視（ $P<.05$ ）であった。

(2) 食の不安と健康行動

食の不安である科学技術食品不安・自然食品安心・農薬不安と健康行動についてみた結果、表1に示した通り健康行動高群が高値であったのは、科学技術食品不安（ $P<.001$ ）と農薬不安（ $P<.001$ ）であった。

(3) 料理の関心・食品表示注意と健康行動

料理の関心・食品表示注意と健康行動についてみた結果、表1に示した通り料理の関心（ $P<.05$ ）・食品表示注意（ $P<.001$ ）ともに健康行動高群が高値であった。

7. 食品知識との関連性

(1) 食品購買時重視項目と食品知識

食品購買時重視項目の外見重視・品質重視・利便性重視・ブランド重視と食品知識についてみた結果、食品知識高群が高値であったのは、表1に示した通り品質重視（ $P<.01$ ）であった。

食の安全と購買行動に関する分析

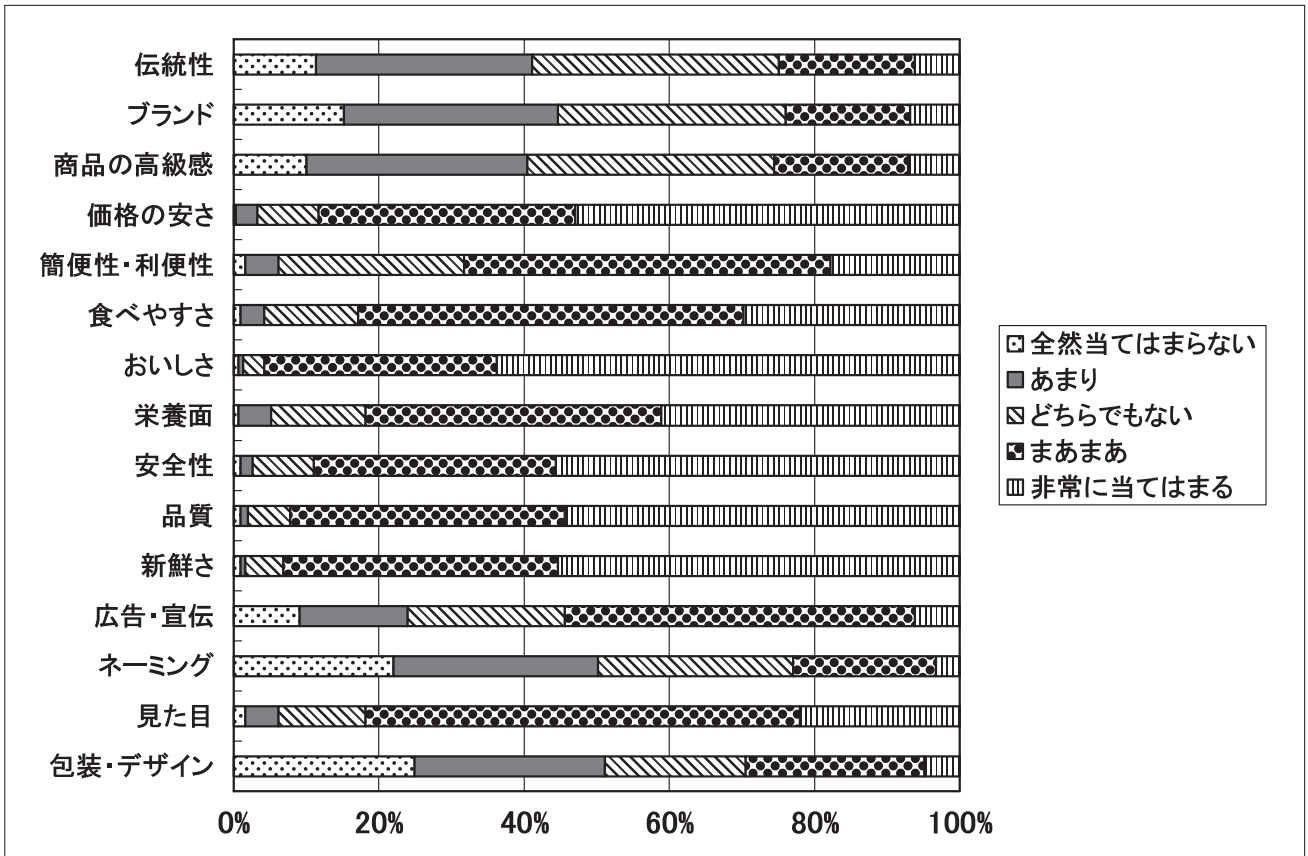


図3. 食品購買時重視項目

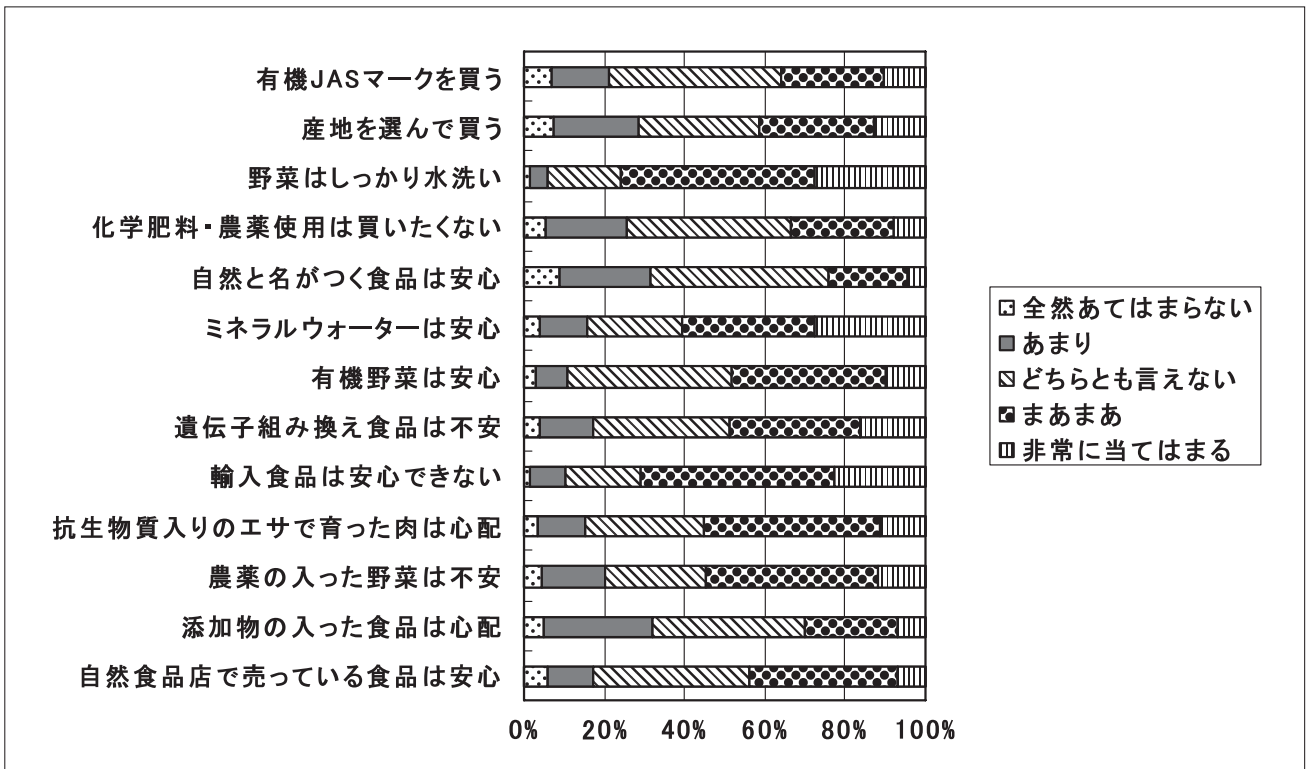


図4. 食品の不安項目

(2) 食の不安と食品知識

食の不安である科学技術食品不安・自然食品安心・農薬不安と食品知識についてみた結果、表1に示した通り食品知識高群が低値であったのは、自然食品安心 ($P<.05$) であった。

(3) 料理の関心・食品表示注意と食品知識

料理の関心・食品表示注意と食品知識についてみた結果、表1に示した通り料理の関心 ($P<.001$)・食品表示注意 ($P<.05$) とともに食品知識高群が高値であった。

IV. 考察

1. 食生活と健康行動

料理の関心についてみた結果、料理は手作りを好むという者が7割以上を占めたが、料理を作ってもらう者が約5割、更に料理の後片付けが面倒である者が約6割、加工食品や冷凍食品を使う者は6割以上を占めた。料理は手作りがいいと思いつつ、自分で料理をするとなると加工食品や冷凍食品を使うという料理に対する意識と行動との乖離が認められた。健康行動についてみた結果、飲酒・喫煙をしないでは約8割を占めたものの、適正な睡眠時間や定期的な運動では約25%程度と低値であり、食生活に気をつけている者も37.0%と低い値を示した。食事・運動・休養は自己の健康管理を行なう上で重要な3項目であり、次世代を担う者として早期からの健康支援が不可欠である。

2. 食品表示と食の不安

食品表示について見るものとしては、価格・期限・値引き率が上位を占めたが栄養成分も88%と高率であった。しかし、問い合わせ先や製造者・販売者、アレルギー物質については低値であり、更なる食の安全性についての知識や意識を高めるための教育が必要であると考ええる。

食品購買時重視項目としては、新鮮さや品質という品質重視項目が多かったが、おいしさや価格の安さなど利便性重視項目も高値であった。先行研究¹²⁾においても簡便性や手軽さ、品質内容という項目が多いと報告されており、今回の研究でも同様の結果が得られた。安全性や栄養面を重視するような働きかけが重要であると考ええる。

食の不安では野菜はしっかり水洗いをするという農薬に対する不安が多く、次に輸入品や抗生物質入りのエサで育った家畜という科学技術食品に対する不安が多いという結果であった。食品の安全性と信頼に関する主婦調査¹³⁾においても不安の一位が農薬に関することであったが、今回、女子学生に対する調査でも同じような結果が得られた。しかし、食品の不安については主婦調査で81%が不安であるという結果に対し今回の結果では57%と低率であった。日々調理を行ない家族の健康管理を行なう主婦と学生による差であると考えが早期からの食育や健康教育が不可欠である。

3. 健康行動・食品知識との関連性

料理の関心・食品表示注意・食の不安・食品購買時重視項目の各項目と健康行動との関連性をみた結果、健康行動をとっている者が料理の関心が高く、食品表示を注意して見ている。更に食の不安項目として農薬や科学技術食品に対する不安が高く、食品を購入する際品質やブランドを重視しているという結果が得られた。同様に料理の関心・食品表示注意・食の不安・食品購買時重視項目の各項目と食品知識との関連性をみた結果、食品知識が高い者が料理の関心が高く、食品表示を注意して見ている。更に食の不安項目として、自然食品は安心であると思っている者が少なく食品を購入する際、品質を重視しているという結果が得られた。健康に対する意識が高く健康行動をとっている者は食に対する意識も高いものと推察されるが、健康意識を高め自己健康管理能力を高める支援が必要であると考ええる。また、食品知識を高めるべく早期からの食に対する意識を高めるような教育とともに食の安全や食品表示教育が不可欠である。

表1. 健康行動と食品知識3群別諸尺度

		健康行動			食品知識		
		低群	中群	高群	低群	中群	高群
外見重視	N	102	88	99	97	120	88
	平均値	3.11	3.08	3.10	3.10	3.10	3.07
	SD	0.83	0.70	0.75	0.83	0.72	0.76
	F値		0.83			0.063	
品質重視	N	102	88	99	97	120	88
	平均値	4.18	4.40	4.54	4.21	4.41	4.49
	SD	0.80	0.52	0.47	0.83	0.56	0.46
	F値		8.47***			4.90**	
利便性重視	N	102	87	99	96	120	88
	平均値	4.26	4.14	4.20	4.20	4.21	4.18
	SD	0.61	0.48	0.51	0.61	0.44	0.56
	F値		1.25			0.06	
ブランド重視	N	102	88	99	97	120	88
	平均値	2.66	2.70	3.02	2.84	2.81	2.63
	SD	1.01	0.77	0.94	0.92	0.88	1.00
	F値		4.60*			1.34	
料理の関心	N	102	88	99	97	121	87
	平均値	2.81	3.04	3.06	2.77	2.97	3.18
	SD	0.64	0.66	0.62	0.59	0.61	0.69
	F値		4.55*			9.76***	
科学技術食品不安	N	102	87	99	97	119	88
	平均値	3.29	3.30	3.68	3.32	3.47	3.52
	SD	0.85	0.69	0.69	0.79	0.66	0.85
	F値		8.85***			1.76	
自然食品安心	N	99	88	99	97	118	87
	平均値	3.22	3.30	3.40	3.34	3.42	3.15
	SD	0.80	0.60	0.75	0.70	0.62	0.85
	F値		1.57			3.57*	
農薬不安	N	103	87	99	98	119	88
	平均値	3.16	3.27	3.59	3.26	3.39	3.41
	SD	0.89	0.63	0.68	0.77	0.68	0.86
	F値		9.11***			1.09	
食品表示注意	N	64	69	83	54	97	79
	平均値	3.47	3.48	3.90	3.46	3.67	3.70
	SD	0.54	0.44	0.54	0.60	0.47	0.55
	F値		18.53***			3.73*	

* P<.05 **P<.01 ***P<.001

引用文献

- 1) 橋本直樹：食品不安－安全安心の境界－，日本放送出版協会，58-73(2007)
- 2) 吉川泰弘：科学から見た食の安全，動物遺伝育種研究，36(2)，207-218(2008)
- 3) 上路雅子：「残留農薬と食の安全性」に関するアンケートの調査結果，日本農薬学会誌，28，360-364(2003)
- 4) 佐藤和夫他：安全性に配慮した栽培方法による北海道産米の市場競争力，農林業問題研究，142(2001)
- 5) 上岡美保：若年齢消費者の食品安全性に対する意識と食品の品質表示に対する購買行動に関する分析，農村研究，95，14-26(2002)
- 6) 石倉洋介他：消費者と事業者の食の安全・安心に対する意識評価，兵庫県立健康環境科学研究センター紀要，1，13-25(2004)
- 7) 田中恵子他：食品表示教育に関する研究，栄養学雑誌，57(7)，343-354(1999)
- 8) 田村孝裕：食品の安全・安心に関する消費者ニーズアンケート結果，生活協同組合研究，34-41(2005)
- 9) Belloc N.B.and Breslow J: Relationship of physical health status and health practices.Internal Prev. Med 1: 409-421(1972)
- 10) 大庭剛司他：安心と不安の社会心理Ⅲ－食に対する安心・不安と知識－，1- 2 (2005)
- 11) 5) 前掲
- 12) 5) 前掲
- 13) 中央調査社：食品の購入と不安意識，中央調査報，542，4853-4856(2002)